

「私と吃音」

熊本学園大学付属中学校

二年 中山 弘教

皆さんは吃音というものを知っていますか。吃音は言語障害の一つで、スムーズに言葉が出てきません。その症状は大きく三つに分けられます。

一つ目は、連発です。連発とは、吃音の中では比較的軽度の症状です。「ぼ、ぼ、ぼく」のように同じ音を何度も繰り返す症状です。二つ目は、伸発です。伸発は、連発の後に出てくるもので、吃音の症状としては中程度のものです。「ぼーくは」「えーつと」のように音を伸ばす症状です。

三つ目は、難発です。難発は、比較的軽度で、伸発と同じように連発の後に出てきます。「ぼ・・（無言）」のように言葉が詰まって出にくい症状です。

吃音は、常に出てくるものではなく、会話の途中や何か発表しているとき、何の前触れ

もなく突然出てきます。また、随伴症状と言  
つて、目をパチパチさせるなど、無意識に体  
の一部を動かしながら言葉を発することもあ  
ります。

私には、吃音があります。私が小学生の時、  
吃音のことで馬鹿にされたりいじめられたり  
しました。当時の私は、そのことを誰にも相  
談できずにいました。五年生になってようや  
く両親に話すことができ、母の提案でことば  
の教室に通うことになりました。ことばの教  
室の先生は、一般的な吃音の学習だけでなく、  
私自身の吃音の特徴、吃音が出ない方法も学  
習の中に取り入れてくれました。また、いじ  
められた話を聞いてくれ、解決策と一緒に考  
えてくれました。私は、ことばの教室に通っ  
て、良かったと思っています。吃音について  
の知識を得ることができ、かつ、吃音があっ  
ても堂々としやべれる自分にしてくれたから  
です。もし、ことばの教室に行っていなけれ  
ば、今の自分に出会えなかったと思います。

私は、中学二年生になり、学校で福祉について学んでいます。「普段の暮らしを幸せにできるようしっかり勉強して、みんなが幸せを感じる」ことができる世の中に変えていきたいと思うようになりました。困っている人  
に手を差し伸べられるようになるため、世の中についてもっと知ることが大切だと思います。そして、日本だけでなく世界の紛争やテロにより、当たり前前が当たり前前ではないところで生活する人たちの幸せのために、学校の研修だけでなく、学校外での活動にも積極的に参加し、たくさんさんの経験を積みたいと思います。そして、そこで学んだことを福祉の力として発揮できるようにしていきたいです。

私は、吃音でたくさん悩まされました。しかし、そのすべてが今の自分の原動力になっているように思います。いじめや馬鹿にされたことも、その時は辛かったけれど、振り返ってみれば大きな経験値となっているのではないかと思います。そういったことに気付か

せてくれた友達や両親、ことばの教室の先生  
に感謝しながら生活し、普段の暮らしをもつ  
と幸せに、そして豊かにしていきたいです。